

感染性肺塞栓後に両側膿胸を併発した *Corynebacterium* 属による Lemierre 症候群の 1 例

竹田 悟志^{1),2)}, 田中 誠²⁾, 児玉 多^{1),2)},
赤木 隆紀^{1),2)}, 宮崎 浩行¹⁾, 平塚 昌文³⁾,
岩崎 昭憲³⁾, 渡辺憲太郎²⁾, 永田 忍彦¹⁾

¹⁾ 福岡大学筑紫病院呼吸器内科

²⁾ 福岡大学病院呼吸器内科

³⁾ 福岡大学病院呼吸器・乳腺内分泌・小児外科

要旨：症例は 34 歳，男性．咽頭痛と倦怠感があり市販の鎮痛薬を内服していたが，改善しないため当院夜間外来を受診し，風邪症候群と診断され感冒薬を処方された．翌日より吸気時に左側胸部・心窩部・左上腕部にかけて吸気時の疼痛を自覚するようになった．感染性肺塞栓と両側膿胸を呈し，血液培養より *Corynebacterium* 属が検出されタゾバクタムナトリウム・ピペラシリンナトリウム (TAZ/PIPC) とリネゾリド (LZD) に抗菌薬を変更し奏功した．頸部造影 CT にて左扁桃膿瘍と左内頸静脈血栓の所見を認め Lemierre 症候群と診断した．入院 16 日目に両側胸膜搔爬術を施行．以後順調に経過し入院 45 日目に退院となった．

キーワード：Lemierre 症候群，*Corynebacterium* 属，感染性肺塞栓